



『高岡古城公園の石垣』 『公園指定150年』

慶長14年(1609)加賀藩初代藩主前田利長公の隠居城として築城。本丸と二の丸を結ぶ土橋の両側に見られる石垣は、築城当時の貴重な遺構が現存。石の積み方は「野面積み」で、「卍」「φ」などの刻印が60種220個認められています。高岡城の縄張は、複数の郭を土橋で繋げる「重ね馬出」で構成されており、極めて防御性の高い城でありましたが、元和元年(1615)「一国一城令」により廃城。しかし、二代利常公は水濠を埋め立てず、その後も歴代の藩主・藩士の懸命の努力により軍事拠点としての能力を維持し続けました。明治の初め、民間払下げの危機の中、高岡町民による請願運動が興り、その熱い思いを代表した服部嘉十郎氏らの努力により、明治8年7月4日「高岡公園」として指定。令和7年公園指定150年を迎えます。

平成18年日本百名城、平成27年国指定史跡 選定。

たかおか
更生保護だより



発行
高岡市保護司会
高岡市更生保護協力会
高岡市役所 社会福祉課内
〒933-8601 高岡市広小路7-50
☎(0766)20-1367 FAX21-1371
高岡市更生保護サポートセンター
高岡市役所 東別館2階
☎(0766)53-5101 FAX53-5102
E-mail:tksc@takaoka-hogosikai.org

誰一人取り残さない
「地域共生社会」の実現に向けて



高岡市
福祉保健部長
戸田 龍太郎

高岡市保護司会の皆様には、思いやりと社会奉仕の精神をもって、罪を犯した人たちの身近な相談相手として、地域の第一線で活躍いただいております。また、関係団体と連携し、「社会を明るくする運動」をはじめ、地域の犯罪や非行の防止に献身的に取り組んでいただいております。深く感謝申し上げます。

令和六年能登半島地震の発災から一年半が経過しようとしています。震災からの復旧・復興を市政の最優先事項として取り組む中、いつ起きるか分からない災害に備え、「強い高岡」の構築に向けた取組を推し進め、市民の皆様が震災前よりも安全・安心に暮らせるまちを目指して、復興に取り組んでまいります。

近年、社会情勢の変化に伴い、犯罪の様相が複雑化・多様化してきております。また、高齢化社会の進展や地域コミュニティの変容に伴い、地域における人と人とのつながりが希薄化し、地域社会がかつて持っていた犯罪抑止機能が低下する中、犯罪や非行をした方を孤立させない、再び犯罪に走らせ

ないための新たなアプローチが求められていると考えております。このため、豊富な経験と知識に基づいた皆様方の活動と福祉等の公的サービスがしっかりと協働し、更生保護事業を推進していくことがこれまで以上に大切になります。

高岡市では、「重層的支援体制整備事業」を実施しており、複雑な問題や多様な課題を抱えて生活している方に対し、課題の解決に向けた対応を迅速に行うため、高齢者、子ども、障がいのある方、生活困窮者などの分野間の壁を越え、行政、支援機関、地域住民や団体などが相互に協力しながら、包括的な相談支援体制の整備を進めているところです。

誰一人取り残さない「地域共生社会」の実現に向けては、再犯防止、更生保護活動の推進が非常に重要であります。立ち直ろうと努める人を支え、受け入れることのできる地域づくりを目指し、高岡市保護司会はじめ更生保護関係団体の皆様と連携を強化し、また幅広い市民の皆様のご理解を得ながら、支援を必要とする対象者に適切なサービスが提供できる体制の構築に取り組んでまいります。

皆様には長年にわたり、高岡市における更生保護の中心的な役割を担っていただいておりますが、今後とも、安全・安心な地域社会をつくるため、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

令和7年度
高岡市保護司会総会 報告

令和7年度高岡市保護司会総会を、5月14日、高岡市役所で開催し

ました。中臣総務部長の司会進行の下、始めに国歌を斉唱し、「保護司の使命」を唱和、そして物故保護司方を偲んで黙禱を行いました。

続いて、総会開会にあたり平田和雄会長が挨拶し、ご来賓の杉本郁子富山保護観察所長、恒川一宇富山地方検察庁高岡支部次席検事、角田悠紀高岡市長代理の戸田龍太郎福祉保健部長、敷中一夫高岡市議会議長から、それぞれ祝辞を頂きました。また、豊田馨高岡警察署長、尾崎憲子社会福祉協議会長、角田幾子更生保護女性会長、稲



杉本郁子富山保護観察所長



平田和雄高岡市保護司会会長

垣聡高岡警察署生活安全課長、八田正人更生保護協力雇用主会長、山崎大樹統括保護観察官の方々にご出席頂きました。

引き続き、事務局より会則16条に則り保護司92名の過半数以上の79名の出席で総会が成立することを確認され、新任保護司8名の紹介がありました。議事は、北部支部の宮林吉郎議長の進行で、議案第1号・令和6年度事業報告及び議案第2号・令和6年度収支決算の報告があり承認されました。次に議案第3号・役員改選について平田会長から説明があり、次期会長に作井宗人氏が承認され、ご本人のご挨拶がありました。次に議案第4号・令和7年度事業計画案及び議案第5号・令和7年度収支予算案が提案され、承認されました。以上をもって総会は滞りなく終了しました。

(総務部長 中臣 信随)

第1期地域別定例研修会報告



山崎大樹統括保護観察官

令和7年度高岡市保護司会総会に引き続き、第1期地域別定例研修会が開催されました。

「現在保護観察所で実施している、又は実施予定の施策について理解を深める」ことを目的とし、「更生保護法の改正等を踏まえた保護観察について」をテーマに、高岡保護区担当の山崎大樹統括保護観察官より、保護観察付きの刑執行猶予者である四号観察を例に挙げ、執行猶予制度の拡充について研修がありました。

例えば、四号観察中に再犯をした場合、執行猶予は付かず実刑となっていました。6月からは再び四号観察とすることが可能となります。これは、社会内処遇の方が再犯防止、改善更生に有効であるとの判断、

また、保険統計的再犯リスク、動的犯罪誘発性要因及び動的保護・改善更生促進要因の分析を含む、保護観察の新たなアセスメントツールの開発により、対象者の過去の経歴から見る静的再犯リスクよりも、現在の社会生活から見る動的再犯リスクによる再犯予測力を有益としたためです。

四号観察は、対象者に特別遵守事項は無く、一般遵守事項もかなり緩和されたかたちをとっており「善行を保持すること」の一項のみです。また、保護司からの報告書が保護観察の仮解除や、執行猶予取り消しの直接的判断材料となる場合が想定され、保護司にとって精神的負担となる対象者処遇でした。

我々保護司の記憶に新しい令和6年の大津市保護司殺害事件は対象者が四号観察でした。

今回の執行猶予制度の拡充は、対象者と保護司の双方にとって精神的負担の軽減につながるように思われます。

保護観察官のエビデンスに基づいた効果的なアセスメントによる動的再犯リスクの定期的評価とリスク状況に応じた対象者との面談、そして、担当保護司との協議による保護観察処遇の実施によって、これまでより効果的に再犯者の減少につながることを期待されます。

(研修部会 幸塚 昭英)

令和7年度 高岡市保護司会活動スナップ



作井宗人新会長挨拶



恒川一宇富山地方検察庁高岡支部次席検事



戸田龍太郎市福祉保健部長



藪中一夫市議会議員



来賓の方々

令和7年度総会
(5月14日)



理事会開催 (令和6年11月19日)



南部支部会開催 (令和6年11月21日)



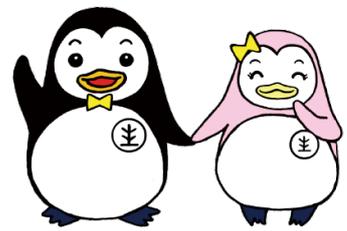
角田悠紀高岡市長懇談会挨拶



ご退任の麻生 修善様 (戸田支部)



ご退任の竹平 幸雄様 (南部支部)



広報部会開催



ご退任の鹿嶋 茂様 (伏木支部)



ご退任の山本 雅信様 (北部支部)

会長退任挨拶



平田 和雄

コロナ禍の真つ最中である令和3年春

に山本前会長より会長職を引き継いで4年の月日が経ちました。

その間、富山保護観察所並びに県保護司連盟や高岡市当局等たくさんの皆様のご指導ご鞭撻を賜り誠にありがとうございました。

私たち保護司には、犯罪を犯した保護観察対象者に対して指導助言し、生活の立ち直り支援する活動と、地域に根付く「社会を明るくする運動」を実践することの二つの大きな使命があります。

近年再犯率の高止まりが一番の問題となっており、刑法や更生保護法の改正が相次いでいますが、地域の更生保護団体が連携を密にして再犯のもととなる「社会的孤立」を防ぐ具体的な方策を構築していくことが期待されています。「地域に貢献する更生保護」の実現に向けて保護司会もますますその活動の幅を広げていくことが求められてくることが予想されます。

これからは作井宗人新会長のもと高岡市保護司会が益々発展していくことを心より祈念しております。4年間の温かいご支援ありがとうございました。

会長就任挨拶



作井 宗人

令和7年度の会長を受けることになりましたのでご挨拶を申し上げます。

平成20年頃保護司会事務局に加わり、ほどなくして事務局長となりました。以来15年余ずっと事務局長を務めました。この度会長の職を受けることとなりましたが、至らなさを思い知らされているこの頃です。

さて、近年保護司を取り巻く環境は大きく変化しています。平成20年頃より始まりを見せた更生保護仕組みの変化予告は、その後再犯防止推進計画施行となり、またこれを受けての第二次推進計画からはより具体的・実質的に変革し始めました。「持続可能な保護司制度の確立に向けた検討会」が計14回開催され、これは更生保護事業の新たな拡がり、また保護司法の改革、保護司待遇の変革につながり、保護司個人のあり方に直接影響のある制度改正となります。

今、変革・改革のさ中ではありませんが、更生保護の根幹の精神は何ら変わりありません。落ち着いて時代の変遷を見据えたところです。どうぞ当保護司会運営に皆様のご協力をお願いし、就任の挨拶とします。

高岡市更生保護女性会研修会報告



令和7年3月9日、富山県警察本部少年サポートセンター西部分室串田君代氏による会員研修会をふれあい福祉センターで開催しました。当日は日曜の午後にも関わらず会員、保護司、民生委員60名余りの参加がありました。

SNSは便利で私達の生活を豊かにしてくれる一方で、使い方によっては大きな危険性も秘めている事を改めて感じました。個人情報流出、誹謗中傷、ネットのいじめ、メンタルヘルスケアへの悪影響などを意識する必要があると思いました。

富山県内の事例からSNSによる被害が身近に起きていること、男女とも被害に遭う数が年々増えていることは地域の安全を願う私達には衝撃的な事実でした。また、子供に携帯を持たせる際は、最初に親子でルールをしっかり話し合う事の大切さを知り、この研修を小学校、中学校の保護者向けの研修会や地域のミニ集会などで活用させて頂きたいと思えました。

顔の見えないネット上での関わりに、抵抗なく過ごしている多くの子どもを守るのには、正しい知識を持った大人、地域の目である私達であることを今一度自覚し、使い方によっては大きな危険性があることを踏まえ、正しくSNSを使う契機となる研修会となりました。研修後の質疑応答でも熱心な質問がなされ、その後のアンケートにおいても、関心の高さが伺える結果となりました。

犯罪や非行のない住みよい地域づくりに今回得た知識を今後の更生保護活動に活かしていきたいと思えます。

(高岡市更生保護女性会 佐野 尚美)



中学校と校区保護司との懇談会



戸出中学校との懇談会



中田中学校との懇談会

令和6年12月2日、高岡市保護司会福岡支部保護司と福岡中学校との懇談会が福岡中学校会議室にて開催されました。この懇談会は、高岡市保護司会と市内全域の中学校との懇談会の一環であり、今回で21回目を迎えました。また、全国的に見ても、小中学校と保護司の懇談会の市内全域での実施は、非常に珍しい状況であり、また有意義な取り組みであります。

今年度の福岡中学校との懇談会では寺田校長先生はじめ、塚田教頭先生、林生徒指導主事、多賀カウンセリング指導員に参加していただき、また高岡市保護司会福岡支部より6名の保護司が参加しました。

まず、校長先生から最近の学校の様子の話があり、次に生徒指導主事が生徒指導の方針や現在までの問題行動の現状を話し、カウンセリング指導員からは不登校及び教室外登校の現状の説明がありました。

不登校生徒の現状は、勉強や友達関係の悩み、また家庭問題など複雑に絡み合っており、起きてくるケースが多い状況です。中学校としては、生徒に寄り添い、自己有用感を大切にした生徒指導を重点目標に取り組んでいるとの事でした。

保護司からは、中学生期からの犯罪を防ぐために、事例発表として薬物使用、窃盗等の担当状況と環境調整の状況を発表し、地域と学校の関係を密にすることの必要性について話しました。このように素晴らしい懇談会は、各中学校及び保護司にとっても非常に重要であり、また今後への参考となる点も多いため是非、継続させていく必要があると感じました。

(協力組織部会 子吉 徹)

祭礼巡回パトロールを終えて

爽やかな五月晴れの下、高岡御車山祭りの巡回パトロールを行いました。この取組は「第75回社会を明るくする運動」の一環として実施しているものです。午後5時の部では32名、そして午後7時の部では20名の参加がありました。保護司の皆様には、ありがとうございました。

巡回中に嬉しい再会がありました。

「校長先生！久しぶり、私のこと覚えてる？」と声をかけてくれた女子高生がいました。小学校での校長時代、低学年に在籍していた子です。10年ぶりの再会で戸惑いましたがあどけない笑顔を見てW子さんだと思いました。

W子さんはネグレクト傾向のある家庭で育った児童でした。また、おとなしくて目立つ児童ではありませんでした。自己肯定感が低い児童であったという記憶があります。その子が、たくさんの友達に囲まれながら明るい表情で声をかけてくれたのです。「今、高校で調理の勉強をしています。将来、洋食のコックになりたいです。高校生活はめっちゃ楽しいです。」

その言葉を聞いてうれしくないはずはありません。この子は今、明るい社会の中で成長していると感じました。明るい未来が訪れることを強く願いました。

明るい社会を築くために大事なことは「人と繋がる」こと。この日、W子さんと繋がったことで私自身がとても明るい気持ちになりました。

(地域活動部長 正平 務)

高岡地区BBS会からのお願い

平成13年12月8日に第1回「ビーチボール・スポーツ交流会」を開始してから本年度24年目を迎えます。現在は、「スポーツ&レクリエーション交流会」と名称を変更し、シャトルボードを行っています。この交流会の目的は、次の4点です。

- ・ スポーツを通じて汗を流し、共に楽しむことに
- ・ より、1人の時とは違った共感や心を開ききっかけをつくる。
- ・ 協力して参加することで、1人では味わえない達成感を得る。
- ・ 目的を持つ事により、励みになり、何かを達成する喜びを体感する。
- ・ 更生保護協力団体の親睦を深め、今後の活動へ繋げていく。

目的は、対象者の参加を前提としていますが、現在、対象者の参加はありません。保護司の方には、是非とも対象者の方へ交流会への参加のお声がけをしていただきますよう、お願い申し上げます。

(高岡地区BBS会長 萩原 隆幸)



高岡御車山祭巡回指導



東部支部
宇波 真一郎

昨年、高岡市保護司会では、播磨社会復帰促進センターの施設研修と明石市保護司会との交流会を実施しました。播磨社会復帰促進センターは、平成19年に官民協働の刑務所として、兵庫県加古川市に建設され、令和4年には、公的サービス法を活用した運営により、民間のアイデアやノウハウを活用することで、受刑者の矯正指導や職業訓練を充実させ、社会復帰・社会定着を進めている施設で、これからの拘禁刑への対処を実践している施設でした。

一方、明石市保護司会との交流は、平成30年12月市本会議で、「明石市更生支援及び再犯防止条例」を可決し、全国に先駆けて制定された保護司会に教えを乞うという交流会でした。明石市保護司会には、学ぶところが大変多くあり、市役所の福祉課に「更生支援課」があり、サポートセンターがある総合福祉センター内には社協をはじめ多くの団体があり、相互連携を深めておられます。また、社協の職員が保護司会の事務担当をしながら、他団体との連携推進の指導的役割を果たしておられました。一方、サポートセンターの活用方法や会員が87名定員に対し71名の充足ということ、これからのメンバー構成、現役世代へのシフトについて、

100%充足の高岡保護司会の現状を素晴らしいと称賛を頂きました。コロナ禍で閉鎖的な活動になりがちであった高岡市保護司会の活動を再確認しませんか？

他市の保護司会との交流もあります。まずは、市内各支部間での交流をしてみませんか？

東部支部は、保護観察数が多い為か、豊富な経験者の知識が得られます。そして、歴代の皆さんが培ってこられた和やかな雰囲気の中に、保護司としてのプライドを感じさせていただけると思います。

支部間交流を進め、多くの皆さんと一緒に支部定例会を行いたいと思っております。

西部支部
平田 裕康

保護司の仕事が何なのか、分からないまま引き受けて6年目を迎えました。その間、3件の事案を担当させていただきましたが、心に残っているのはやはり最初に担当した事案です。最初という事で、ベテラン保護司の方と二人で引受人の方の家を訪問しました。対象者の方は、大学を出た後東京で飲食関係の仕事に就いたのですが、仕事が多忙で体調を崩し薬に頼る生活に陥りました。その結果、オーバードーズを繰り返す罪を犯してしまいました。その後仮釈放になり、引受人の父親と親子二人での出直しの生活が始まりました。最初は理想とプライドが高く、今の職に不満もあったようですが、辞

めずに続けています。たまに来るLINEには、旅行に行ったとか、今の職場でただ一人選ばれ東京に研修に行くことになったとか、それなりに順調にいつているようです。

最近来たLINEでは、ボランティアをした方がいいものはないか、との問い合わせでした。いつまでも、対象者と関わるのは良くないことかもしれないませんが、次の知らせが少し待ち遠しく思います。

南部支部
中島 由紀子

◆新任保護司として

このたび、お世話になっている方のご推薦をいただき、保護司を拝命することになりました。これまで民生委員主任児童委員として地域の皆さまと関わってきましたが、実は、自分が保護司に就くことになって初めて、曾祖父もかつて保護司をしていたことを家族から聞き、とても驚くとともに、不思議な縁を感じました。まだ経験も浅く、身に余る役割ではありますが、このように巡り合わせを大切に、地域のために少しでもお役に立てればと思っております。これからは、「社会を明るくする運動」にも積極的に参加し、誰もが安心して過ごせる温かい地域づくりに努めてまいります。経験も浅く、わからないことも多いですが、どうぞこれからも温かく見守っていただき、ご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

北部支部
鳥山 敬文

保護司の声がかかったとき、自分の人間力では無理だと悩みました。しかし、保護司をしていた亡き父は背中を押してくれるだろうと思ひ引き受けました。そして、保護司を拝命して一年が過ぎ、現在、少年を担当しています。この少年の母親との会話の中でいつも思うことがあります。

母親の「何々であるべき・すべき」という正論ばかりでは、前に進むことが困難ではないか。まずこの家では、温もりのある家庭環境づくりが大切だと思ひました。そこで少年に、たまにはお母さんに甘いものをプレゼントしてみてもどうかと投げかけ、母親には仕事から帰ってきた息子に「お疲れ様、今日も頑張ったね」と、温かい言葉を掛けてみてはどうかとお願いしました。いまだ実現はしていませんが、きっとその日が来ることを信じています。

私の大事にしていることは、相手を敬いよく聴くこと「敬聴」(私のつくった言葉)です。この「敬聴力」を忘れずに寄り添い、対象者の更生にわずかでもお役に立てればありがたいと思っております。

最後になりましたが、私が保護司となったことを次女が大変喜んでくれました。次女の応援を励みにして、頂いた大役が私の喜びとなるよう努力して参ります。

伏木支部 鹿嶋 茂

◇退任するにあたって

保護司退任ということで原稿を依頼されました。何を書けばよいのか分からず「たかおか更生保護だより」15年分のファイルを開くと色々ときよみがあります。子どもの頃を思い出しました。私の住まいは伏木の旧町名は中道です。昔は伏木銀座通りといわれ伏木病院やパチンコ屋もありました。今は能登半島地震の影響と高齢化により多くの人が町を離れ、私の家の近くでは今年1月から解体作業が順次行われていきます。家を壊すたび地響きがして空き地が増えていきます。

伏木支部は過去10年間の保護観察件数は6件。更女伏木支部の会員は100名以上いますから犯罪も少なかったのだと思います。保護司は13人体制でしたが令和7年度から12人体制になります。能登半島地震前の伏木の人口は約11,600人、現在はもっと減っています。

IT化の社会、マイナンバーカード、大阪万博で現金が使えないなど、いつの時代も私のように取り残される人がいます。もっと生きやすい世の中になってほしいです。

保護司になって15年一日一日を一生懸命に務め、多くの人と巡り合い、たくさんの方の経験をしました。すべてが私の思い出、私の人生です。ありがとうございました。

戸田支部 桃井 善昌

戸田支部には戸出・中田中学校の2校があり8名の保護司が地域ごとに手分けして参加し、第21回中学校との懇談会を開催しました。

戸出中学校では令和6年11月26日に開催し、参加者は藤田校長はじめ、教頭、生徒指導主事の教諭、戸出東部小、戸出西部小より吉田校長、豊原校長が参加され校区保護司は4名でした。

中学校から生徒指導の取り組みについて発表があり、非行などのケースはほとんどみられなくなっている一方、SNSでの書き込みによるいじめや不登校生徒への対応が課題であり、それぞれその生徒に合った対応をしている報告がありました。

保護司からの意見として不登校の生徒に関しては学校だけで問題を抱えないでフリースクール等の教育機関と連携し、居場所を確保していくこと、また現在大きな問題になっている闇バイトについて、もし関わるようになった生徒がいる場合、悩みを気軽に相談できる雰囲気のある学校であって欲しいと要望しました。

成長過程で中学生は難しい時期であり、今後も情報交換を通して生徒のよい良い成長につなげていけたらと思います。

福岡支部 濱木 香奈子

◇保護司3年目の雑感

前職を定年退職後、保護司を拝命しました。保護司の何たるかも知らず、不安しかなかったのですが、研修会や様々な活動を経て、少しずつ分かることが増えました。

以前は関心のなかった、非行や犯罪、刑務所、依存症などに関する本を、図書館や書店で目にしては、手に取ることもよくあります。カウンセリングやメンタルヘルスについても興味をもって学べるようになりました。

支部定例会や地区の活動で、先輩保護司方が語られる具体的な内容については、耳をそばだて想像を膨らませて聞き入っています。

折しも環境調整の事案を先輩保護司と一緒に担当することになりました。支部定例会では、事例報告と検討の時間が設けてあります。幅広い職種や知見をもつ先輩方と、オープンかつ協力的な雰囲気の中で、より良い対応を模索しています。これは、私にとつて職責を果たすためにもとても大切な時間です。

今は、家族を介護しながらの悪戦苦闘となっていますが、誰しも一人では生きられません。

人様の一人の人生に関わることの重大性を認識しつつも、誰かの役に立てることがあるなら幸甚です。今後ともよろしくお願いいたします。

保護司のひまわり

私は日々神職の家に生まれ育ち、幼い頃から地域の人々と関わる親の姿を見てきました。また、教育現場に長年携わってきたこともあり、自分も少しでも地域へ貢献できたらと漠然と考えていました。そんな中、10年程前から富山刑務所で年末行われる大祓式に神職の教誨師補助員として奉仕させて頂いてきました。そして、昨年ご縁があり保護司を拝命することになりました。祖母もかつて長年保護司を務めていましたが、今になってその重みを実感しています。任命から1年、まだ保護観察の担当経験はなく、正直不安もありますが、研修や先輩方との交流を通じ、素晴らしい心を持った方々と共に活動できる喜びを感じています。

今後、少しでも多くのことを学び、人は変われるということを信じて相手に寄り添っていかれたらと思います。教師が一人一人の生徒と向き合うように、相手の声に耳を傾け、少しでも前を向く手助けができればと思っています。(北部支部 宮崎 慎一)



Time with Hope

がんばれるのは、どんなときも。誰かの手を借り、自分も助けたい。

犯罪や非行を防止し、立ち直りを変える地域のチカラ 第75回 社会を明るくする運動

令和7年度春の叙勲・受章者紹介

藍綬褒章

近松 裕子様 (南部支部)

保護司の動静

新任保護司



中島 由紀子 (南部支部) 令和6年12月



尾山 晴康 (北部支部) 令和6年12月



道前 照一 (伏木支部) 令和6年12月



石浦 知仁 (戸田支部) 令和6年12月



高木 敬介 (東部支部) 令和7年5月



塚本 政彦 (南部支部) 令和7年5月



高田 成宏 (北部支部) 令和7年5月



山岸 智史 (福岡支部) 令和7年5月

退任保護司

山本 雅信様 (北部支部) 令和6年12月

大菅 博 様 (北部支部) 令和6年12月

鶴谷 茂樹様 (伏木支部) 令和6年12月

麻生 修善様 (戸田支部) 令和6年12月

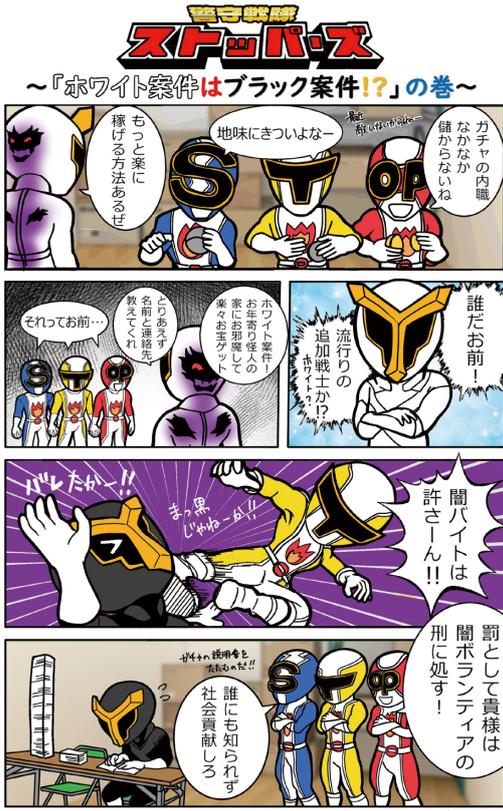
田子 実 様 (東部支部) 令和7年5月

竹平 幸雄様 (南部支部) 令和7年5月

近松 裕子様 (南部支部) 令和7年5月

清水 範子様 (北部支部) 令和7年5月

鹿嶋 茂 様 (伏木支部) 令和7年5月



この漫画は高岡龍谷高等学校美術部の生徒たちが高岡警察署生活安全課の依頼を受けて制作したもので、警察が学校で開いた闇バイトへの注意を呼びかける講義の中で、全校生徒約500人にお披露目されました。

高岡龍谷高等学校美術部作

令和7年度 高岡市保護司会役員紹介

Table of committee members including roles like 会長, 副会長, 理事, and their names and departments.

編集後記

5月8日、東京都立川市の小学校で男2人が暴れ、教職員5人が怪我をしました。24年前に大阪池田小学校で起きた事件を思い出した人も多いのではないのでしょうか。...

一人取り残さない社会」の実現には、心の問題を捉える必要性があります。心のケアの充実を願って、ここに「たかおか更生保護だより」第48号を発刊します。(広報部)